

平成19年度 第1回 芦屋市スポーツ振興審議会 会議要旨

日 時	平成19年8月13日(月) 15:00~16:30
場 所	芦屋市立体育館・青少年センター 第1・2会議室
出席者	会 長 濱田雅義 副会長 岡田 明 委 員 大崎洋二, 金山千広, 車谷博己, 坂井和明, 幣原みや, 畑中俊彦 花木義輝, 山口泰雄 欠席委員: 井上真美子, 春名片史 事務局 教育長, 社会教育部長, 社会教育部次長, スポーツ青少年課長, スポーツ・青少年課員3名
会議の公表	公 開 非公開 部分公開 < 非公開・部分公開とした場合の理由 >
傍聴者	なし

1 開 会

2 教育長挨拶

3 任命書授与

教育長より, 大崎洋二, 車谷博己, 幣原みや, 畑中俊彦氏に任命書を授与する。

4 会長挨拶

5 自己紹介

6 議 事

濱田会長 本日は,(1)第1回調査研究部会の報告について,(2)スポーツ活動に関する市民意識調査の実施についてを議題とします。

芦屋市スポーツ振興基本計画が5年目を迎えるので中間評価を行うため,本審議会の意見を賜りたい。その評価材料として市民意識調査を実施する。

本審議会の中に調査研究部会を設置し第1回調査研究部会を行いました。経緯,経過については,事務局から説明してもらいます。

事務局 本市のスポーツ振興基本計画は,平成13年9月に「21世紀初頭の芦屋市におけるスポーツ振興のあり方について」芦屋市スポーツ振興審議会に諮問し,平成14年7月の答申「アクティブ芦屋スポーツプラン」を受け平成15年3月に策定したものです。

芦屋市には,平成5年に策定した「スポーツ・フォア・オール計画」があ

り「豊かな人間性と文化をはぐくむ健康なまち」を目標に、市民みんながスポーツに親しめる環境作りに取り組んできました。

その結果、平成13年10月に実施した市民意識調査では、定期的なスポーツ実施者の割合が56%にのぼり、一定の成果を収めています。

基本計画は、市民一人ひとりが、それぞれの年齢や体力、目的や好みに応じて、「いつでも」「どこでも」「気軽に」運動・スポーツを継続して実施できるようにすると共に、生涯スポーツ振興の指針であると考えています。

計画の期間は10年間であり、平成19年度には、前期5か年の検証と評価を行い、後期5か年の見直しをおこないます。

基本理念として

すべての市民が豊かなスポーツライフを通して、アクティブ(主体的・活動的・健康的)で質の高い生活を実現する。

政策目標として

スポーツ・フォー・エブリワンの実現のため、週1回以上のスポーツ実施率が66%(3人に2人)になることを目指す。

市民でつくるクラブライフの実現のため、市民のスポーツクラブ加入率が40%になることを目指す。

政策目標を達成するための施策として

施設の整備促進

クラブ・プログラム・イベントの活性化

指導者・ボランティア・選手・愛好者の養成及び確保。

となっている。

中間評価

本審議会に調査研究部会を設置し、4月、5月とスポーツ現況調査を行いまして、現在、調査研究部会で結果の確認・分析を行っています。

今後のスケジュールとしては、9月に市民意識調査を実施し素案の作成を行い1月パブリックコメントを実施します。素案修正や意見具申を賜り、3月には後期5か年計画の策定を審議会や市議会、本市ホームページで公表したいと考えています。

濱田会長 　ただ今の説明に対して質問はありますか。

幣原委員 　調査の対象は、全く無作為なのか、それともある程度の領域を決めているのか、どのように計画を立てているのか。

事務局 　調査対象は、20歳から79歳の男女を対象に、1,500人を無作為に抽出しています。

濱田会長 　花木部会長より、調査研究部会の報告をお願いします。

花木部会長 　調査研究部会の報告として、芦屋市スポーツ実施等に係る調査項目の22の項

目について説明します。

(資料1について説明)

山口委員 補足します。市内3中学の体力テストの結果を見ると、全国平均・県の平均と比べて劣っている。県の平均は全国平均より落ち、芦屋市はさらに県の平均より落ちている。

小学校の報告は1件だけ、県教委に報告するのが1校だけのため1件だけである。かつては、小学校の体力テストは皆がやっていたが、全体的に最近はやらない。学校もあまりやりたがらない。倒れられたら困る等のためやる数が減っている。芦屋は全体的に検証したほうがよい、中学校がだいぶ落ちているので、小学校でも体力テストを実施したほうがよい。

濱田会長 ただ今の説明に対して質問・ご意見はございませんか。

車谷委員 20年前と比べて測定の仕方が違う。以前はバッジテストといって一定記録がありクリアすれば金・銀・銅のバッジがもらえ、目標があって学校でも頑張っただけという取り組みがあった。最近は、無理せず気楽に、記録は計る程度といったものである。

山口委員 体力テストは、昭和39年に始まり結果は毎年伸びていたが、昭和45年で伸びが止まり、昭和55年から落ちる。かつては体力検定で、金・銀・銅の賞が貰えたが、動機づけが無くなり先生も子供も目標を無くしたのではないか。

車谷委員 伊丹市は復活したようです。

山口委員 伊丹市は種目を減らして実施している。

幣原委員 芦屋市内3中学の体育会系の部活動への参加率を先ほどお聞きしましたが、加入率は高いと考えると、日常スポーツを実施している人数は多い。体力テストの結果が県より低いのは、平均すると全体的に低いのか。高い者と低い者に差があって、スポーツをしない低い者が数値を下げている、平均すると低くなるのか。

事務局 そこまでの分析は出来ていません。

濱田会長 他に意見・質問はありませんか。では次にスポーツ活動に関する市民意識調査について事務局の説明を求めます。

事務局 芦屋市スポーツ振興基本計画のP1～2にかけて前回調査の概要が掲載されています。国が実施した調査、兵庫県、兵庫県の県民意識調査を受けて芦屋市がこのような市民意識調査をする事で比較検討が可能になります。

先般、調査研究部会でも、調査内容については地元の状況もあるが、国・県・市の調査内容をあまり変更せず、比較評価が出来るようにという事で作成しました。

濱田会長 調査項目について、山口委員の説明を求めます。

山口委員 前回、平成13年の内容とあまり変更はありません。この調査については、

県民意識調査の中間調査と尺度を変えずにやりたい。県の調査はかつての内閣府の最後のスポーツに関する世論調査方法がベースになっており、市・県・全国と比較出来るようになってきている。変更点については、実施・運動スポーツの一覧に「ヨガ」を入れました。これは昨年の県民意識調査で最近年齢を問わず女性の間で増えたからです。他に、スポーツ情報についてのところで、前はコミスクだけの表記であったものを、スポーツクラブ21・コミスクと併記しました。

県の意識調査のダイジェストによると、平成9年に実施した前回と比べて、6割が運動不足・体力の衰えを感じている。実施率が低いのは中年男性で、逆に高齢者の実施率は高い。そして男性に比べて女性は元気と言うことがはっきりわかる。中年期に関しては県の依頼で、加古川市と芦屋市で運動実施調査を行ったが秋口にはどの程度変化したかを報告できると思います。

アクティブ芦屋スポーツプランの答申を見ると、これは前回の結果を集めた芦屋市生涯スポーツ振興マスタープラン、つまり前回調査のダイジェスト版だが、芦屋市民の週1回の定期的スポーツ実施率は、男女平均すると56%、これは全国の37%、兵庫県の35%と比べて誇らしく、これを今回の調査と比べるとどのように変化しているかということ、この秋には報告できません。

濱田会長 　ただ今の説明に対して質問はございませんか。

山口委員 　最後のページ性別・年齢の後ろに体重と身長を入れたい。あまりスポーツの調査では入れない項目ですが、これを入れるとBMIと言って体脂肪率がわかる。一般に運動をしている人のBMIは低く、していない人のBMIは高い。男女別・年齢別で評価できるが記入してもらえるかどうか問題である。結果として、中年男性には良いショック療法になる。

濱田会長 　質問・ご意見が無いようですので、スポーツ活動に関する市民意識調査につきましてはご了承を得たということで進めたいと思います。よろしくお願ひします。

　以上で、本日予定していました議題につきましては終わります。他に何かございませんか。

岡田委員 　市内3中学における部活動の外部指導者について人数・種目・費用はわかりますか。

事務局 　市内に11名の外部指導者がいます。詳細は把握していませんので、調査して報告いたします。

車谷委員 　市費が9名、県費は残り2名です。

濱田会長 　他に質問はありませんか。

坂井委員 　アンケートに関して。私はいつも通勤に自転車を使用しているが、これは

スポーツ種目のサイクリングにあたるのか。というのは、仕事とスポーツを分けるというイメージが強いが、普段の生活の中で自転車に乗っている私はスポーツをしているという意識は無く、生活の中にスポーツが入っている。イベントなどに参加するといった特殊な事ではなく、日常の中での活動量というようなことはこのアンケートでは聞けないと思う。

山口委員 難しい質問です。内閣府のこのような調査では基本的に運動・スポーツに限定されている。日常的な身体活動量を増やす事は重要で、市民の日常の決まったスポーツだけではなく、個人で運動をする事も大事、通勤に自転車を使う事は自分にとっては日常で、生活手段であってもスポーツをしていると言う意識のある人は 印を入れれば良いと思います。

坂井委員 スポーツ・青少年課のポスターにあるように「そんなに難しく考えないでいいんじゃない？」と思うようにしているが、このような項目が入らないのかと思います。

岡田委員 厚生労働省の調査では1日何歩以上歩くかという項目があるが、これはスポーツに関する調査ではなく健康に関する調査項目である。

金山委員 今回の調査はスポーツ活動に関するもので、ライフスタイルをみる調査ではないので限界がある。自分はどのようなスポーツ活動をしているかという判断をするもので、今日のような意見が出たことを踏まえた上で調査を実施すればよいと考えます。

濱田会長 他に、意見・質問はありませんか。無いようなので本日はこれで終わります。

松本部長 閉会の挨拶

事務局 これをもちまして平成19年度第1回芦屋市スポーツ振興審議会を終わります。